

令和6(2024)年度 学校経営計画 各部署重点目標と達成方法

令和6(2024)年度 学校経営計画 各部署重点目標と達成方法

		進路部 2024年度重点目標														
重要度 〔4〕大変に重要 〔3〕やや重要 〔2〕あまり重要でない 〔1〕重要でない	項目1	目標	生徒が自ら学ぶ授業及び探究的な活動を意識した授業の実践													
		達成方法	妻中サクセスの身体化をすべての教育活動で図る。													
		目標	タブレットや電子黒板などのＩＣＴ機器の有効利用を図り、学び合いの機会を設ける。反転学習を実践し研究する。													
	項目2	目標	授業の6要素「ねらい、メモ、反応、発表、質問、振り返り」の学習姿勢を身体化し、思考を伴う能動的な活動ができる授業の実践する。													
		達成方法	生徒の進路意識改革													
		目標	建学の精神や校訓を身体化し、学ぶ意味をすべての教育活動で考えさせる。													
達成度 〔4〕75~100% 〔3〕50~74% 〔2〕25~49% 〔1〕0~24% 〔0〕ほとんど達成できていない	項目3	目標	生徒及び保護者を対象とした進路ガイダンスを計画的に実施する。													
		達成方法	各種検定試験の積極受験を奨励する。													
		目標	中学の基礎基本事項の定着													
	項目4	達成方法	朝のSHRの時間を有効利用し、基礎基本の定着を図る													
		目標	基礎基本事項を精選し、その定着に教科担当者だけでなく学年団全体で取り組む。													
		達成方法	チューター等を活用して、成績不振者の支援を徹底する。													
部署コード/平均	項目5	目標	大学受験への支援態勢													
		達成方法	平常日の放課後及び長期休業中に実施する受験対策講座を充実させる。													
		目標	大学入試に対応した講習を充実させる。													
		目標	教師の受験指導力アップ													
		達成方法	各種研究会や研修に参加して、最新情報を収集する。													
		目標	大学入試問題の解き合いと、検討会を実施する。													
		重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度	
		3.56	3.22	3.67	3.00	3.78	2.89	3.67	3.11	3.67	2.89					
		1	3	3	2	4	2	2	2	3	3					
		2	4	4	4	4	4	4	3	4	3					
		3	4	4	4	4	4	4	4	4	4					
		4	4	4	3	4	2	4	3	4	3					
		5	3	2	3	2	3	2	4	3	3	2				
		6	3	3	4	3	3	3	3	3	3	2				
		7	3	2	3	2	4	2	4	3	4	3				
		8	4	3	4	3	4	3	4	3	4	3				
		9	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3				
<取組状況・次年度への課題など>																
重点項目の重要度の認識については、概ね共有ができている。達成度については、項目3と項目5が低いスコアーとなっているため、来年度は意識していきたい。																

令和6(2024)年度 学校経営計画 各部署重点目標と達成方法

		生徒部 2024年度重点目標												
重要度 〔4〕大変に重要 〔3〕やや重要 〔2〕あまり重要でない 〔1〕重要でない 達成度 〔4〕75~100% 〔3〕ほぼ達成した 〔2〕50~74% 〔1〕まあまあ達成した 〔0〕25~49% 〔-〕あまり達成できなかつた 〔1〕0~24% 〔-〕ほとんど達成できていない	項目1	目標	生徒・教員・保護者のポジティブなエネルギーを高めて学校全体を活気づけ、「妻中平和」を目指す。											
		達成方法	集会や職員会議、保護者会において、意識してポジティブな思考になるようにうながす声かけを続ける。学校からネガティブなことを減らして、誰もが過ごしやすい環境をつくることを、大妻中野に関わるすべての人が意識するようにうながす。 コロナ禍の3年間では生徒たちの主体性を制限するような場面が多かったため、さまざまな生徒の活動を徐々に従前に戻していく。委員会を活性化し、生徒自らが発案して行動できるような環境を整える。教員が主導するのではなく、生徒たちを動かすよう心がける。											
	項目2	目標	校訓「恥を知れ」と「日常の五心」をベースに日常から継続的に指導し、「誰からも信頼される人」を育成する。											
		達成方法	校内での挨拶指導や登下校指導、学級・学年指導や学校行事など、学校生活のあらゆる場面を通じてルールやマナー、モラルの重要性を理解させ、社会的に信頼される人になるように、また誰に言われなくともそれができるように継続して指導する。 上記指導をおこなう教職員自身が生徒の模範となるように、学校生活のあらゆる場面でルール・時間・約束を守り、生徒に対するポジティブな声かけをすることにより、生徒の主体的な変容をうながせる存在になるよう教職員自身も自己研鑽に努める。											
	項目3	目標	建学の精神「学芸を修めて人類のために」を柱として、豊かな人間性を養い、心豊かな「誰からも応援される人」を育成する。											
		達成方法	学校生活のあらゆる場面で、他者に対する「思いやり」と「寛容」の心を持つるように声かけをしていく。グローバル社会において、多様性を受容すること、他者に対する思いやりと許容を持つことが必須であることを学校行事などにおいて体感させる。 多様な人間関係の中で多くの学びが得られる場として、「部活動に関わる活動方針」を踏まえた上で、各部活動をバランス良く実施する。部活動においてもポジティブな声かけと保護者との連携で、心理的・肉体的安全を最優先に活動することを心がける。											
	項目4	目標	生徒たちの健全な成長のために、学校生活における安心・安全を確保する。											
		達成方法	インターネットやSNS、いじめに関する知識や考え方を、HRや生徒集会で周知する。講演会などで専門家の意見も聞かせながら、そのリスクを自分ごととして理解させる。アンケート調査などで校内のいじめなどの早期発見に努め、適時的確な対応を心がける。 生徒たちの健全な成長をサポートするために、学校と家庭との連携を密におこない、信頼関係を構築・継続する。さまざまなストレッスや不安を抱えた生徒たちをケアするために、保健室やカウンセリングルームの環境を充実させる。											
		項目1	項目2	項目3	項目4									
		重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度					
部署コード/平均		3.94	3.18	4.00	3.12	3.82	3.18	3.82	3.41					
1		4	3	4	3	4	3	4	3					
2		4	3	4	2	4	3	4	3					
3		4	4	4	3	4	4	4	3					
4		4	3	4	3	4	3	4	3					
5		4	3	4	4	4	4	4	4					
6		4	4	4	4	4	4	4	4					
7		3	2	4	3	3	3	4	4					
8		4	3	4	3	4	3	4	3					
9		4	4	4	4	4	4	1	3					
10		4	2	4	3	3	3	4	3					
11		4	3	4	3	3	3	4	3					
12		4	3	4	3	4	2	4	4					
13		4	4	4	3	4	3	4	4					
14		4	3	4	2	4	3	4	4					
15		4	3	4	3	4	3	4	3					
16		4	4	4	3	4	3	4	3					
17		4	3	4	4	4	3	4	4					
<取組状況・次年度への課題など>														
生徒・教職員・保護者をはじめ、妻中に関わるすべての人からネガティブをなくすために、「妻中平和」「信頼される人になる」「元気で明るくさわやかに」「基本笑顔」というワードを式典や集会、普段のホームルームなどでも年間を通じて繰り返し、生徒たちのポジティブマインドセットを育んできた。多くの生徒に浸透してきていると考えるが、一部まだ思いやりや想像力が足りない生徒が問題を抱えたりトラブルを起こしたりしているのが現状である。中高生という多感な時期であることを考えると問題やトラブルをゼロにすることはおそらくできないが、それを乗り越えたり解消したりすることで関係者は成長するということを信じて、すべてのこと前に向きに取り組むことを次年度の基本姿勢としたい。														
学校で生徒とともに近くで接する教職員が上に挙げたワードを守る存在であることを強く意識して日々過ごすとともに、家庭において同じようにもっとも近くで接する保護者にもmanabaや保護者会などでの発信を通じて、同じ姿勢を共有していただきたいと考えている。昨今ではインターネットやSNSでの事故や事件も多くなっているので、その危険性をしっかりと伝えていくと同時に、将来的にどのように使っていきたいかということについても考えさせる指導をしていく。そのため、現行のルールがなぜあるのか、学校としての「願い」を丁寧に伝えていく必要があると考える。														

令和6(2024)年度 学校経営計画 各部署重点目標と達成方法

令和6(2024)年度 学校経営計画 各部署重点目標と達成方法

		グローバル・センター 2024年度重点目標 Global Center - The Goals to achieve for 2024														
重要度 〔4〕大変に重要 〔3〕やや重要 〔2〕あまり重要でない 〔1〕重要でない	達成度 〔4〕75~100% (ほぼ達成した) 〔3〕50~74% (まあまあ達成した) 〔2〕25~49% (あまり達成できなかつた) 〔1〕0~24% (ほとんど達成できていない)	G o al 目標	スクールミッションの実現を目指し、SGHネットワーク、ユネスコスクールとしての取り組みを、Beyond School 活動、高大連携と関連させて、さらに進める。													
			To further enhance our educational activities (classes in curriculum and extracurricular projects) for global context to cultivate students' global citizenship and acquire intercultural competence and mindset for coexistence in global diversity.													
			ユネスコ・スクール+SGHネットワーク校として、国内外の様々な機関、学校、大学と協働し、様々なプログラム、コンテストに生徒と一緒に取り組む。具体的には、Model UN, HLAB, Debate, TEDx, SGH Forum, FPTなどのプログラムの情報提供や参加、企画、実施を進め、その進行状況を校務運営会議を始め、TEAMSなどで、報告、共有する。参加生徒のフィードバックも共有して、成果物とする。													
			外国语科、地歴公民社会科、理科など、教科との連携を進め、プログラムへ参加する生徒をファシリテイトする。特に、GLCの外国语教育、GIS、フロンティアプロジェクトを更に充実させ、生徒のフィードバック、学んだことの言語化をはかり、成果を目に見える形にして、より一層の共有を進める。													
項目1		S t r 達 成 方 法 g y	As a UNESCO School + SGH Network School, work with students on various programs and contests in collaboration with various domestic and international organizations, schools, and universities, including Model UN, HLAB, HEnda, WISH, TEDx, SGH Forum, etc. We encourage students to participate in these various programs, and share their achievements via TEAMS, etc with all.													
			To promote collaboration with the foreign language department, the social studies department, and to encourage students to participate in programs together. In particular, we will further enhance GLC's foreign language education, GIS, and Frontier Project Team. Along with that, their achievement and feedback by students will be promoted to make their achievements visible and shared even more.													
重要度 〔4〕大変に重要 〔3〕やや重要 〔2〕あまり重要でない 〔1〕重要でない			生徒の進路実現をサポートする。日本の大学受験が海外の大学の仕組みにシフトしていることを踏まえる。留学やグローバル系、リベラルアーツ系、海外大への進学サポートに具体的に取り組む。													
達成度 〔4〕75~100% (ほぼ達成した) 〔3〕50~74% (まあまあ達成した) 〔2〕25~49% (あまり達成できなかつた) 〔1〕0~24% (ほとんど達成できていない)			In order to help students realize global careers, we will promote more support for studying abroad and applying to universities in Japan and overseas in light of the shift in Japanese university entrance examinations toward a Western approach.													
項目2		S t r 達 成 方 法 g y	卒業生を積極的に活用し、その経験を在校生に共有できるようにする。また、英語ネイティブ教員との協働による様々な国際プログラム企画、参加指導、国内大学(English Track)、海外大学進学ガイダンスや相談、留学相談などをonlineと対面のハイブリッドで行う。また、IELTS、TOFEL等のサポートもグローバルチューターを活用し、さらに進める。													
			「トビタテ！留学JAPAN」、「HLAB」、「コリプリ」などと連携し、それぞれの留学や進学プログラムへのチャレンジをさらに積極的に生徒に薦め、そのための説明会、報告会などを積極的に実施していく。													
			Actively utilize alumni to share their experiences with current students. In addition, to collaborate with native English faculty to plan various international programs, and offer guidance and counseling for students who wish to study at domestic and foreign universities as well as study abroad counseling. Additionally, support for IELTS, TOFEL, etc. will be further promoted through the use of global tutors.													
			By collaboration with Tobitate! Study Abroad JAPAN", "HLAB", "American Embassy", "British Council", "Australian State Governments", "French Embassy", "Colibri", etc., we will actively encourage students to take on the challenge of studying abroad and entering higher education programs, and will hold briefing sessions and debriefing sessions for these programs online.													
項目3		G o al 目標	グローバル教育、帰国生教育、GLCの成果を一層、内外にアピールし、広報活動に繋がる取り組みをグローバルセンターの教職員の特性を活かして進める。編入対応により、一層の帰国生の入学者の確保に努める。													
			Efforts will be made to further promote our GLC and 20 years of returnee education both inside and outside the school, and to utilize the characteristics of the Global Center faculty and staff to promote public relations activities.													
			編入試験での面接対応や帰国小学生英語講座などをより一層充実させ、北米、ヨーロッパ、アジアと世界規模で本校の取り組みとその成果を普及させる。その際、日本人教員だけではなく、様々な国籍を持つ教職員の特性をより活かせるようにする。													
			大妻女子大学、英語教育研究所、玉川大学教育学部ユネスコクラブ、日本国際連合協会、文科省グローバル化に対応した外国語教育推進事業研究校（慶應義塾大学、早稲田大学、大東文化大学など）との連携をより一層進め、その成果を校内外に発信する。													
		S t r 達 成 方 法 g y	To further enhance our efforts and results on a global scale in North America, Europe, and Asia by providing interview support for transfer exams and English classes for returning elementary school students. In doing so, we will make the best use of not only Japanese teachers but also teachers and staff of various nationalities.													
			To Further promote collaboration with Otsuma Women's University Institute for English Education, the UNESCO Club of Tamagawa University's Faculty of Education, the United Nations Association of Japan, MEXT and some faculty of Keio University, Waseda University, Daito Bunka University, we will disseminate its benefits both inside and outside the school.													
項目1			項目2		項目3											
重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度	重要度		
部署コード/平均	3.75	3.25	3.75	3.25	3.75	3.13										
1	3	2	3	3	3	3										
2	4	4	4	4	4	3										
3	3	2	3	2	3	3										
4	4	4	4	4	4	3										
5	4	3	4	3	4	3										
6	4	3	4	3	4	3										
7	4	4	4	4	4	4										
8	4	4	4	3	4	3										

<取組状況・次年度への課題など>

- 項目1について。2024年度は、SGHネットワーク校として4年目、ユネスコスクール加盟校として3年目として、これまでの実績をまとめ、文部科学省WNLコンソーシアム構築支援事業へ申請、採択されたことは、大きな実績となった。2014年度にSGHへの申請を開始して、10年。それまでの取り組みをまとめ、一層の進展に向かい、本校のグローバル教育が新しいフェーズに入ったことが実感される年度となった。また、大妻間連携も一層進み、大妻模擬国連が継続的に実施され、またWNLでも大妻多摩中高と連携して、多摩校の生徒を迎えての取り組みが継続された。 Beyond School が特別なことではなく、日常となり、その成果の報告や共有もなされるようになった。次年度は、WNLの取り組みをさらに進めたい。
- 項目2について。生徒の留学は1年、セメスター、ターム留学について、“探究留学”というカリキュラムと運動した留学への土台が出来つつある。トビタテ！留学JAPANでは、学年カリキュラムの中で位置づけられた取り組みが進み、30名近く応募ができた。留学から帰国した生徒たち、卒業生が自主的にその成果を普及させ、特に大学受験に留学経験を活かす方法を後輩に伝える動きが確立しつつある。海外大学進学では、アメリカの大学への合格とともに実際に海外の大学に進学する生徒を複数たずことが可能となり、大学進学後の留学体験を卒業生が中高生にフィードバックする機会も増え、留学を自分の将来のキャリアに役立てていこうという意識が高まっている。今後も多様性豊かな進学をサポートしていくたい。
- 項目3について。帰国小学生英語保持講座の受講生も着実に増加し、この講座出身の多くの生徒が本校の帰国生入試、グローバル入試を受験している。と同時に、この講座出身の入学生が本校全体をリードする存在になっており、大学進学実績でも大きな貢献がある。大妻女子大学教授、服部孝彦教授との連携は14年目となり、また、ユネスコスクール活動での連携は、玉川大学との連携を中心に、東海大学との連携の他、ACCUとの連携も進んでいる。また、文部科学省のグローバル化に対応した外国語教育推進事業も継続しており、さらに、様々な大学、大学の先生方との連携が進んでいる。